

番 号	題 名		
請願第1号	JR 豊肥本線（仮称）宗麟大橋東口駅の設置を求める請願		
紹介議員	田島 寛信 倉掛 賢裕 佐藤 和彦 衛藤 延洋 高松 大樹		
提出者 住所 氏名	大分市米良8組-6 大分・滝尾駅間新駅建設促進期成会 会長 糸永 隆章		
受理年月日	令和2年3月10日	付託委員会	建設
要 旨	<p>滝尾地区は大分市の中心市街地に隣接する地域でありながら、他地域に比べ道路整備等が遅れている。下郡地区では、宗麟大橋が開通したことから利便性は向上したものの、交通渋滞は一向に解消していない。地区の生活道路に多数の車両が進入するなどの問題も発生している。交通混雑と交通事故が多発し、住民生活に大きな影響が生じている。</p> <p>滝尾地区連合自治会(25自治会)では、交通渋滞などの問題解決のため、長年にわたりJR九州大分支社をはじめ大分市長、大分県知事に対し新駅建設の要望を出してきた。こうした中、大分市では平成29年に大分市地域公共交通網形成計画を策定し、その基本方針のひとつに公共交通ネットワークの構築を掲げ、利用者のニーズに対し、ダイヤの改善や新駅設置の可能性について検討するとしている。</p> <p>現在、大分市内にあるJRの各駅の間隔は約2キロメートルとなっているが、JR大分駅からJR滝尾駅間は5.1キロメートルと距離が長く、多くの地域住民はJRを利用できずに不便を来している。中間点である2.3キロメートル地点の境目公園周辺は新駅設置に適している。</p> <p>大分工業団地が隣接し、町内には多くの施設や事業所も進出してきた。また、大型マンションが次々と建設されている。少子高齢社会が到来しているが、従業員の増加、人口増加の兆しが「賑わいづくり」で発展する地域へと変貌させている。</p> <p>高齢者が免許返納しても、便利で安心な公共の交通手段により、買い物や通院が容易なることを期待している。さらに都市計画道路庄の原佐野線の整備の遅れによる交通量の増加が予想される。交通渋滞の緩和を図り、また、背後地の大分高等学校、大分県立情報科学高等学校、昭和電工ドーム大分や大分スポーツ公園、大型団地へのアクセス確保のためにもJR大分駅・JR滝尾駅間に新駅として（仮称）宗麟大橋東口駅を設置していただきたく請願する。</p>		